

俺はリムルⅡテンペスト。三上悟として日本でサラリーマンしていたが、通り魔に刺され死亡し、この世界にスライムとして転生した。
それから色々あって、魔物たちが平和に暮らせる国「ジュラ・テンペスト連邦国」の盟主になったりした。その間も、運命の人であるシズさんと出会いこの姿を得たり、魔王になってテンペスト開国祭をしたりしながら、第二の人生を楽しんでいる。

そんな折、神聖法皇国ルベリオスを納める魔王ルミナスⅡバレンタインと、文化交流を行う流れになった。さらには開国祭で楽しませてもらった礼をしたいという事で、俺はルミナス直々に呼び出される事となった。開国祭のお礼って何なんだろう？
俺は少しの恐怖と期待を胸に秘めながら、ルミナスの所へと足を運ぶ事となったのだが…。

なんじゃその恰好は！
貴様は自分の外見に
対して無自覚すぎる！

丁度よい
妾が教育してやる！

うえええ！？
普段着じゃだめだったの！？
って言うか教育って何っ！？

そして俺は、ルミナスによって、徹底的に「女の子」としての立ち居振る舞いを仕込まれる羽目になったのだった。

おお、あの方が魔物の主
リムル・テンペスト様か

お美しい…
「魔物の姫」という
書物の通りですな

あはは…
あははは…

俺は、ルミナスが歓迎のために用意してくれたパーティーに参加していた。
ルミナスがいつの間にか用意していた、俺専用のパーティードレスに着替えてだ。
本当にお姫様のように見える。正直、こんな格好は慣れないし落ち着かない。
ほら、貴族たちの視線を集めちゃってるじゃないか…



いかがですかなリムル様
ルベリオスは美しい所
でしょう？

ええ…
まあ…
はい…

しかし、ルミナス様と
リムル様の前では
ルベリオスの美しさも
霞んでしまいますな

貴族はいずれも俺を見て、美しいと感嘆の言葉を漏らし、
そして俺をじっと見つめてくる。
うう、むずがゆい…確かに自分でも美しいと思うが
見られるのは慣れてないんだ。

あはははは…
俺なんてそんな…

そう俺が言葉を発した瞬間だった。

ひあっ!?
んんっ!!

うおっ!!
ど、どうされましたか
リムル様!?

俺の体に走った衝撃で、俺は不意に声を漏らしてしまう。
小さい悲鳴のような可愛らしい声に、周囲の貴族たちが反応する。
やめろ…見るなっ…。今の俺を見ないでくれっ…。



ん？ どうしたのじゃ
リムルよ
そんな声を上げて
何を驚く？

うぐっ…
ル、ルミナス？

いまだに何かを我慢するように顔をこわばらせる俺に、ルミナスが近づいて来た。
いつも通りのゴスロイドレスに身を包んだルミナスは、意地悪そうな顔を浮かべている。
こいつ…白々しいにも程がある…。俺は思念伝達でルミナスに抗議した。



お前：
何を白々しい事を…！
人の膣に仕込んだ
ローター動かしただろ…！

そう、俺はこのドレスに着替える際、ルミナスによって膣内にローターを仕込まれたのだ。
最初は抵抗していた俺だが、最終的にはルミナスに抵抗しきれず受け入れてしまった。
流石は色欲者のスキル保有者だ…恐るべし…。
というか童貞だった俺が、あんな美人に迫られたら抵抗なんて出来るわけないだろ…。

もじ

もじ

ガ
ガ
ガ
ガ
ガ



ふん、貴様さきほど
自分の事を俺と
言おうとしたな？

うっ…
うっ…
そ、それはっ…

もじ

ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ

その外見で俺と
言う奴があるか

罰じゃしばらく
反省するが良い

もじ

ルミナスは思念伝達でそう冷たく言い放ち、俺から距離を取った。
え？ ローターは？ まさかこのまま？ 貴族たちがいるのに??

おお：リムル様が
頬を赤らめて
おられる：美しい

きつとルミナス様の
美しさにあの様な
表情を浮かべて
おられるのだ：

カーッ
~~~~~

ん？  
く？

もじ

もじ

ガ  
ガ  
ガ  
ガ  
ガ

貴族たちは、ローターの刺激で頬を赤らめる俺を見て、盛大に勘違いしている。  
確かにルミナスはそういう雰囲気があるから、そんなに間違っではないのだろう。  
実際、俺もローター仕込まれてるし。ルミナスに食われたようなモンだし。  
とは言え、早急に何とかしないと…。こんな所でイッてしまったら恥ずかしすぎる…。



というわけで俺はルミナスの私室に連れ込まれたわけだけど…。  
女性の部屋に入ったの初めてかもしれない。

濡れたドレスを  
脱いでこれに  
着替えるが良い

あ、ああ…  
ありがとう…

微妙に緊張している俺を後目に、ルミナスが着替えを手渡して来た。  
しかしこの服、なんか見た事があるなと思ったら、童貞を殺す服ってやつじゃないか。  
確かに俺は童貞だったけど、俺がこれを着るって、何の冗談だよ。  
むしろそれを理解した上でこの服を手渡して来たのか？ だとしたら高度な嫌がらせだな…。  
まあいいか…。俺はラファエル先生の力を借りつつ、童貞を殺す服に袖を通した。



着替えたか？  
フフ…これも中々  
似合っておるぞ

うう…って  
両足広げる必要  
あるのかよっ…!!

ドキ

ドキ

着替えを終えた俺にルミナスが近づき、俺の両足を大きく広げて来た。  
童貞を殺す服が似合うと言われても、喜んでいいのかどうか複雑な気分だ。  
とは言え、ルミナスが手にした鏡に映る俺の姿は、確かにとてもかわいい。  
こんな美少女が、童貞を殺す服で、両足を広げてるなんて…ドキドキしてきた。



まさか自分の姿を  
見て興奮しておるのか？

童貞をこじらせると  
大変よな

ど、ど、ど、ど、ど  
童貞ちゃうしっ！

これでも頼りになる  
落ち着いた大人の男って  
感じだったし！

それにしても  
この部屋に入ってから  
緊張しっぱなしではないか  
もう少し安心するがよい

うぐっ…  
そ、それは…

そう言ってルミナスは妖艶な笑みを浮かべる。  
完全にルミナスに手玉に取られてしまってる…。  
これで大人の男は我ながら無理があるな…。



それにリムルよ  
貴様は男より女の  
才能がありそうじゃ

変に意地を張らず  
その美しい身を  
生かした方が  
良いと思うぞ？

そ、そんな事  
言われても…  
ひっ!?

ほら女の体は  
気持ちよからう？  
フフツ…

そう言ってルミナスは、俺の濡れた割れ目に指を添わせて来た。  
細く滑らかなルミナスの指に愛撫されると、めちやくちや気持ちいい。  
そして俺が快楽に身を震わせていると、ルミナスの指が膣内に潜り込んで来た。



ひっ!?  
んんんっっ!!

ほう締め付けて  
くるではないか  
そんなに妾の指が  
気に入ったか?

いつ…  
やめっ…  
ひあっ…!!

やめろと言われても  
こんなに締め付けられては  
抜けぬではないか

ぬちゅっ♡

ぬちゅっ♡

そうやってルミナスは、その繊細な指先で俺の膣内をかき回してくる。  
ヤバイ、ピンポイントに気持ちのいい所だけ攻めてくる…声が抑えられない。



フツッ…ほら  
これが見えるか？  
こんなに濡れておるぞ

うぐっ…  
はぁっ…はぁっ…

さてもうすっかり  
準備が出来た  
ようじゃな

ぬちゅっ

ドキ

ドキ

ルミナスは俺の膣から指を抜き、その指を伝う愛液を見せつけてきた。  
準備？ 準備ってどういう意味だ？ これが本番じゃなかったのか？  
そんな俺の不安と期待を見透かすように、ルミナスは一つの道具を取り出した。



次はこれを  
使うとしようか  
妾も気持ち良  
なりたいたし

うえっ!!?  
そ、それは…

知らんのか?  
双頭デイルド  
という玩具じゃ

いや、双頭デイルドは知ってるけど、こうやって実物を見るのは初めてだ。  
えっ? と言う事は、これを今から俺とルミナスに挿入するって事??

ドキ

ドキ



んっ…女と直接  
交わるのは  
コレが初めてか？

童貞卒業と  
言った所じゃな

ど、童貞卒業  
なのかこれ…  
何か違うような…

ルミナスはそう言って自分のオマニコに慣れた手つきで双頭デイルドの片方を挿入した。  
うわ、本当にあんなの入れちゃったよこの人…目の前で見ると…エロいなコレ…。  
しかしこれ、どう考えても童貞卒業というよりは、俺が犯される方なんだけど…。  
そんな俺の戸惑いをよそに、ルミナスは双頭デイルドの先端を俺のオマニコにあてがった。



リムルよこれに  
着替えるが良い

むっ…  
なんだこれ…

翌朝。俺はルミナスにブレザータイプの制服を渡され、それに袖を通した。  
それにしても流石俺、女子学生の制服を着ると、本当にJKに見えてしまう。  
しかし、制服姿でのお手伝いって、一体何をやらされるんだろう？  
そんな事を考えながらルミナスの後についていくと、その答えが分かった。

先生  
おはよう  
ございます！

そう、手伝いの場所は学校なのだ。俺は生徒達から元気よく挨拶をされた。  
そして俺は、予想もしていなかったお手伝いをやらされる羽目になったのだった。



何をボーっと  
しておるのじゃ  
早く壁に両手を  
つくが良い

へっ…？  
えええっ…！？

ズラッ

俺は何も分からず、指示に従い壁に両手をつくくと、生徒達に向けてお尻を向ける恰好になってしまった。ルミナスが用意した制服のスカートは超短くて、ルミナスの用意した下着が丸見えになってしまう。流石にこれは恥ずかしい…なんでこんな格好を？俺が抗議しようとした矢先、ルミナスが口を開いた。



ではこれから  
性教育を始めます  
このお姉ちゃんは  
教材です

はあっ!?  
聞いてない  
んだけど!?

ルミナスの口からとんでもないセリフが飛び出した。  
性教育の教材? この俺が? 何言ってるんだ!?  
今から俺の身体が、この子達に見られるって事!?  
そんな恥ずかしい事、出来るわけが……!



ではまず  
邪魔な布切れを  
引きはがします

ふあっ!?  
ちょ、おまっ!!  
人の話聞けよっ!?

お姉ちゃんのおまた  
丸見えになってる

うわあっ...  
ママのおまた  
より綺麗...

くぬぬ

ルミナスは俺の抗議を無視して、下着を引き裂いた。  
俺のオマンコが生徒達から丸見えになってしまった。  
これは恥ずかしい...しかし生徒達に見つめられると、  
ここから逃げ出す事も流石にやり辛いわけで...



やれやれ  
やっと終わった…

まさかあんな事になるなんて…

告。折角ルミナスに女性らしさを教育して貰ったのです。

テンペストでもそれを意識して過ごす事を推奨します。

あれから数日後、特に何事もなく、俺は無事にテンペストへと帰還した。俺はルミナスに玩具にされ、好き放題犯され、性教育の教材にもされたが、ルミナスは上機嫌で、国のトップ交流としては上出来と言っていいだろう。

ラファエルさんのにも、俺が女性らしく善がった事は好印象のようだ。ラファエルさんは、俺が自分の外見を自覚せず振舞っている事で発生する問題を心配しており、そういう意味でも今回の交流を評価しているようだ。

そうだなあ… じゃあ早速貰ったお土産に袖を通すとしますか

俺は自室に戻り、ルミナスから貰った服へと着替えた。



♡♡♡  
リムル様可愛い！  
ルミナス様と  
おそろいの服  
なんですわね！

あ、ああっ…  
交流の証にとルミナスが  
仕立ててくれたんだ

リミナス様も  
リムル様の事を  
気に入っておいで  
なのですわね

ルミナスの普段着と同じデザインのゴスロリ風衣装に、シュナが喜んでいた。やっぱり、シュナのような美少女から、可愛いと褒められるのは気分がいい。シュナは上機嫌で、お茶とお菓子の準備をやって、席を立てて行った。…今のうちに、自分が今どんな格好なのか、じっくりと確認すると思いますか。





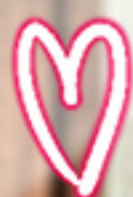


是。鏡を用意しました。  
存分にご堪能下さい

おおっ…！  
小さいルミナスって  
感じで…中々…

鏡の中には、ルミナスを一回り小さくしたような俺が映っていた。  
考えてみればお互いロングヘアーだし、髪の毛の色も割と近いし、  
このゴスロリ風衣装が似合うのも、当然と言えば当然なんだよな。  
それにしても、この姿を見ていると…変な気分になってくるな。

じ



♡♡





はあっ…はあっ…

ルミナスに愛撫された事や犯された事、生徒達の視線を思い出して、  
どうにも全身がムズムズするというか、股間がムズムズすると言うか。  
思い出すだけでこんなに鮮やかに感触が蘇るなんて…そんな事あるか？  
…いやこれ、本当に俺の身体に物理的な刺激が加わってないか！？  
まさかこの服、何か呪いとか魔法とかかけられてるんじゃないか！？

もじ

もじ